

事業再評価シート

事業名	地域連携道路事業		
箇所名	県道学園木花台本郷北方線 山下工区	市町村名	宮崎市

(上段は前回、下段は今回)

実施方法	☒ 補助 ☐ 交付金 ☐ 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H26	R2	R11	
		R7	R13	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)	
			事業費	用地
	6,000	445	7.4	96.0
	8,106	2,883	35.6	100.0
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	国の補助制度に関連し再評価が必要		2.8	継続
	再評価後5年経過		2.3	継続

全体計画	一般県道学園木花台本郷北方線は、宮崎学園都市の中心部を起点とし、主要幹線である国道220号南バイパスとを結ぶ延長約4.5kmの一般県道である。沿道周辺には大学や高校等の教育施設や宮崎大学医学部附属病院、住宅団地、工業団地が立地していることから、全線が開通すれば、大幅な利便性の向上が期待される。
------	--

事業概要	○道路区分 第4種第2級 ○全体延長 L=1,120m ○設計速度 V=50km/h ○計画幅員 車道部 W=6.0m 全幅 W=15.0m
------	--

事業目的	宮崎市街地方面から災害拠点の役割を持つ宮崎大学医学部附属病院へのアクセス道路及び物流拠点である宮崎学園都市ハイテクパークと空港・港湾を結ぶバイパスを整備することにより、大規模災害時の救助・救援ルートを確保できるほか、物流の効率化・活性化を図る。また、バイパス整備により、主要渋滞箇所を回避したルート整備ができ、渋滞緩和に寄与する。 本工区の整備は、市内中心部へのアクセス強化、本県の防災強化、都市近郊における円滑な移動の支援及び空港・港湾、高速ICなどの交通拠点へのアクセス向上に寄与するものである。
------	--

事業の進捗状況

○現在の進捗状況

- ・事業進捗率は、令和7年12月末現在で、約36%（事業費ベース）である。
- ・用地進捗率は、令和7年12月末現在で、約100%（面積ベース）である。

社会情勢等の変化

○事業を取り巻く社会情勢等の変化

- ・宮崎港：令和8年2月よりRORO船の新定期航路（東京航路）開設
- ・宮崎空港：国際定期路線（宮崎ー台北）（宮崎ーソウル）増便

事業効果の分析

○費用対効果

B/C=2.3

○事業を継続することの事業効果分析

宮崎市街地方面から災害拠点の役割を持つ宮崎大学医学部附属病院へのアクセス道路及び物流拠点である宮崎学園都市ハイテクパークと空港・港湾を結ぶバイパスを整備することにより、大規模災害時の救助・救援ルートを確認できるほか、物流の効率化・活性化を図る。また、バイパス整備により、主要渋滞箇所を回避したルート整備ができ、渋滞緩和に寄与する。

コスト削減

○コスト削減の取り組み

- ・建設発生土については、極力、公共事業間で再利用することとしており、今後も引き続き、他事業と連携を図りながら、コスト削減に努めていく。

代替案の可能性

- ・現行ルートでの用地買収が完了しており、路線変更等の代替案の可能性はない。

対応方針

事業継続

位置図（管内図）

